

第14回「青松賞」懸賞論文審査結果

12月27日、「青松賞」懸賞論文選考委員会が、選考委員として、齋藤人文学部長・馬場法学部長・澤村経済学部長・田辺人文・法・経済学部同窓会長・近藤事務局長で開催され、以下の通りの選考結果となりましたのでお知らせいたします。応募数は5件でした。応募の内訳は、人文学部3件・法学部2件・経済学部0件でした。

奨励賞 アロンソ・トビアス (人文学部4年)

スマホの使用に見る人工知能の人間支配

渡邊 健太 (人文学部3年)

特異点にさしかかる人類のあり方

中川 瑞月 (人文学部2年)

2045年問題を考える ～人工知能が人間を超えるとき～
言語活動から見た人間の唯一性について

塚原 風門 (法学部2年)

2045年を前に私たち人間が考えるべきこと

増渕 雄太 (法学部2年)

人工知能によって雇用は奪われるのだろうか

※4年生の入賞者は、3月の各学部の卒業祝賀会で、3年生以下の入賞者は、4月のガイダンスにて同窓会から表彰いたしますので、ご出席をお願い致します。
詳しくは後日該当者へご連絡致します。

(予告) 2019年 第15回「青松」懸賞論文のテーマ

「東京オリンピックがもたらすもの」 に決定しました。

2019年9月末締め切りです。